



MONTHLY

神變別冊

宗派だより

令和5年12月号



令和五年十二月六日発行

発行所 真言宗醍醐派宗務本庁

京都市伏見区

醍醐東大路町二十二

電話 〇七五―五七―一〇〇〇二

FAX 〇七五―五七―一〇〇〇二

總本山醍醐寺第百三世座主

仲田順和大僧正猊下遷化

總本山醍醐寺第百三世座主 仲田順和大僧正猊下は、去る十一月十日午前六時、急性心不全のため三寶院でご遷化された。世寿九十九歳、法蔭六十六、哀悼。

一山悲しみのなか、三寶院白書院にて十、十一日午後五時三十分より一山僧侶・職員で読誦。十二日は午前十時より御納棺の後、引き続き白書院に祭壇を設け、午後六時三十分より、多くの方々が参座するなか、總本山御寺泉涌寺長老上村貞郎大僧正猊下御導師のもと醍醐派宗会議員が職衆を務め通夜法要を執行。弔問には多くの方々が参香に訪れた。

翌十三日午前十時より、上村貞郎長老猊下御導師のもと密葬儀が執り行われ、眞言宗長者飛鷹全隆大僧正猊下の弔辞、読経のなか、多くの関係者らが弔問に訪れ参香。しめやかに法要が執り行われた。

今月の掲載内容

- ・ 總本山醍醐寺第百三世座主 仲田順和大僧正猊下遷化 1
- ・ 「日本人の忘れもの知恵会議」寄稿文 2
- ・ 遍照心院順和大僧正歎徳文 2
- ・ 總本山御寺泉涌寺長老 大僧正 貞郎 3
- ・ 弔辞 3
- ・ 眞言宗長者 總本山教王護国寺長者 飛鷹全隆 3
- ・ 宗派だより等 4

總本山醍醐寺第百三世座主

仲田順和大僧正本葬儀

日程 令和五年十二月十七日(日曜日)

受付 醍醐寺 三寶院 午前十時より

式場 醍醐寺 金堂 午前十一時より

※開場は右記の時間に変更となっております

供花お申込みについて

供花 一五、〇〇〇円(税込)

※供花はご芳名板にてお受けいたします

申込先 公益社

電話 〇七五―二二―四〇〇〇

FAX 〇七五―二四―一〇四二〇

WEB 二次元コードより

お申し込みいただけます



京都新聞「日本人の忘れもの知恵会議」元日特集に寄稿された、最後の原稿です

命のつながりに思いを寄せる「心」を持つ

總本山醍醐寺座主 仲田 順和

心新たに二〇二三（令和五）年の新春を迎えますことを寿ぎ申し上げます。不安の多い世情ではございますが、新年を迎える楽しみは、過去から未来へと続く命の繋がりにときめきを感じるひとときではないかと存じます。

本年は、弘法大師空海上人のご誕生一二五〇年にあたり、さらには真言宗の立教開宗一二〇〇年の記念の年となります。醍醐寺の初代座主観賢僧正は醍醐天皇に大師号の下賜を願ひ出ました。天皇は空海上人のご業績を称え、「弘法利生」という言葉の中から「弘法」の二字をとり、大師号を下賜されました。この故事から醍醐寺は「弘法利生」の言葉を大切に参りました。

空海上人は他の命を重んじ、「心の営み」に重きを置き、人が人を思う心を大切にされました。密教の教えを広めるだけでなく、多くの人々の暮らしに役立つことを実際になされたことから、「弘法利生」の言葉の重み

を感じることができます。

そして、空海上人を思慕したのが醍醐寺の開山、聖宝理源大師であり、聖宝理源大師のお心をそのままに、わかりやすく説いたのが観賢僧正でした。

「観賢僧正は諡号下賜ご報告のため、お大師様の休まれているお廟へと入って行かれました。そこでお大師様のお姿を見ると、髪とひげが伸びていたので剃って差し上げ、新しい衣にお着替えいだいた」とのお話が残っています。これはまさに、「人が人に対して祈る心」を表しています。多くの人々にとって祈りの原点となっているのは、「人が人に対して祈り、命が命に対して祈る」という行為です。「大師いまだおわします」の本質はここにあります。過去の命に対して、生きているままにお仕えるのです。自然の中で生きる私たちは多くの命とつながり、一人だけでは生きていきません。過ぎ去った命がな

ければ今の私たちの命ありません。この命のつながりに思いを寄せることができる「心」を持つことが、人が生きる意義なのではないでしょうか。

どうぞ、そのような心を忘れず、今起きている社会の大きなうねりの中にあっても、ぜひ、優しい言葉で、優しい心を伝えるよう努力していきたいものです。そして、私たちは共に「国境を超えてアジア社会に、アフリカ社会に、南米社会に、ヨーロッパ社会に、アメリカ社会に、そして日本の社会の中にも、グローバルな多様性を持った人間観や宗教観の根本的な問い直しが存在する」、これをきちっと理解する必要があることを自覚していただきたいと思います。

二〇二三年一月一日京都新聞別刷特集掲載
「日本人の忘れもの知恵会議」元日特集寄稿文

遍照心院順和大僧正歎徳文

夫レ有以転変ノ理法ハ賢聖モ猶免レズ、大聖世尊ハ雙樹ノ雲ニ隠レ、高祖大師ハ八葉ノ峯ニ入り給イ入定留身シテ弥勒下生ノ曉ヲ楽シミトス、然リト雖モ諸法本来不生ノ故ニ生滅ハ水波ノ戯レノミ。

伏シテ惟レバ故ノ醍醐寺座主、三寶院門跡、醍醐派管長大僧正順和大和尚ハ昭和九年東京都品川ニ生マレ、海照山品川寺順海大和尚ノ門弟トシテ幼少ヨリ仏門ニ入りテ横浜西方寺、鎌倉覚園寺ニ受具ス。大正大学ノ学ビ舎ニテハ梵文学ヲ修道シ、年齢二十有五ニシテ智弁大阿闍梨耶ニ随ヒ両部秘教ノ奥義ヲ探リ、戒玉大僧正ヨリ醍醐法流ヲ瀉瓶シテ密流醍醐ノ印璽ヲ受ク、青年僧ニ至ツテハ醍醐山青年連合会ヲ発足シ、大峯先駟ノ峰ニ入りテハ駿門ヲ恢興シテ抖擞修行ニ怠リナシ、別格本山品川寺住職トシテハ檀信徒教化ニ尽力シ、殊ニハ昭和五十七年総本山醍醐寺執行、真言宗醍醐派ノ役職ヲ歴任シテ次イデソノ長ニ任ジ、歴代座主ヲ佐ケテ寺門ノ興隆ヲ図リ、更ニ醍醐山伝法学院ノ院長トシテ青年学徒ノ訓育ニ膺ル。

平成二十二年十月総本山醍醐寺百三世座主、大本山三寶院五十二代門跡、真言宗醍醐派第十一世管長ノ猊座ニ陞ル。
殊ニハ三寶院開創九百年大法要ヲ完遂シ、平成二十八年真言宗長者、大阿闍梨トシテ後七日御修法ヲ成満ス。令和四年太元帥大法ヲ三寶院道場ニ於イテ厳修、歴代ノ芳躅ニ恥ズル処ナシ。

出テハ国際ロータリー第2750地区ガバナートシテ世界的ナ社会奉仕ニ貢献シ、品川寺梵鐘ヲ廻ツテハ、スイスジュネーブ市トノ国際交流、世界平和ノ為ニ尽力ス。京都国立博物館評議員ヲ勤メ文化財保護ニ斡旋スル所アリ。

然リト雖モ化導限リアリ、維時世寿九十也 嗚呼悲シイ哉 痛シイ哉 悲ガ中ノ悲 痛ガ中ノ痛ナリ

爰ニ護持法主 醐山泉山ノ法縁深重ナルヲ追懐シ、本日葬送ノ儀ニ当タリ聊カ大和尚ノ遺徳ヲ歎ジ、恭シク般若理趣ノ妙典ヲ供ズ、香煙自ラ觀率ノ内院ニ薫ジ、宝鬘サナガラ阿字ノ心殿ニ芬ル、然レバ即チ順和大和尚既ニ大空位ニ遊歩シ、本不生ヲ証シ給フラン 乃至法界 平等利益

令和五年十一月十三日

総本山 御寺泉涌寺

長老 大僧正 貞郎

総本山醍醐寺座主・大本山三寶院門跡・真言宗醍醐派管長 仲田順和大僧正

弔辭

夫れ 秋の黄葉積粉として終に枝に返る期なし。夏の蓮華萎み落ちて豈に臺に託く期有らむや。 此処に知んぬ。

始めあり終りあるは、これ世の常の理。生者必滅はすなわち人の定まれる則なり、と。

去むぬる十一月十日、総本山醍醐寺座主・大本山三寶院門跡・真言宗醍醐派管長、仲田順和大僧正、奄然として圓寂の相を示し給う

世壽九十才なり、法臘六十六星霜を数う

嗚呼、悲しい哉、惜しい哉、惜しみても余りあり。

仲田順和座主猊下は昭和九年、東京品川に御出生。幼少より俊秀の誉高く、昭和三十二年、品川寺に入山、出家なされ、師順海和尚の室に入り修行されると共に、学に入りては大正大学で梵文学を学び、殊に仏教原典の研究に専心、同大学院博士課程に進まれる。

順海和尚の後を継ぎ、昭和四十三年、東京品川、品川寺住職に晋山。多くの信徒を導く一方、昭和六十年真言宗総本山醍醐寺においても執行長・真言宗醍醐派宗務総長として能く前座主、麻生文雄猊下を支え、醍醐派法流の相承、修験道の興隆や文化財の保存等に精励を尽くさる。

遂に平成二十二年十月、宗団、本山の興望を担って真言宗総本山醍醐寺一〇三世座主・三寶院門跡・醍醐派管長に就任なさる。又出でては平成二十八年後七日御修法の大阿闍梨を務め、「真言宗長者」の位に昇らる。

順和猊下は、法流本山としての醍醐寺を殊に尊重し、国内外に多くの弟子を育成し、その豊かな人徳と識見を以て数多の僧・俗、有縁の人々に敬慕・信頼され、広く衆生済度に尽くされる。

又猊下は、御当山醍醐寺には凡そ十萬点の文化財を所蔵する中、その文化財指定に努力され、うち七萬点を超える「文書・聖教」類に国宝という格上げの大萃の成果をなせし御業績は、誠に尊くも大いなる浄行なり。

それは、座主猊下の先見性と実行力の賜物なり。

嗟、猊下はかくも本山・宗団・又衆生済度に燦たる偉業を示し、残し給うなり。

然れども大和尚、今すでに在りませぬ。その温顔、警咳接するに由なし。

本日茲に告別の厳儀に列し、真言宗各派総大本山を代表し、大和尚の功績を讃仰し、恭しく頓證無上菩提を祈り奉る。

南無大師遍照金剛

維時令和五年十一月十三日

真言宗長者

総本山教王護国寺長者

飛鷹全隆

宗派だより

『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議 第三十七回教団行政責任者研修会

令和五年十月六日(金) 京都東急ホテル

出席：浦郷宜右 教学部長

第五十二回修験伝法教校

令和五年十月七日(土) ～十月十一日(水)

初級六名、中級三名、上級十名

修験得度式

令和五年十月八日(日)

受者六名

恵印灌頂

令和五年十月十日(火)

滅罪灌頂七名、覚悟灌頂四名、伝法灌頂十一名

親授式

令和五年十月二十九日(日) 午前十一時 三宝院本堂

北海道 慈法院 門馬 圭澄

新潟 実相寺 小笹 孝恭

真言宗十八本山法話リレー 辻説法

第六回 令和五年十月二十九日(日) 午後零時三十分 唐門前

令和五年度 第六十一回密教学芸賞・第五十五回密教教化賞 授賞式

令和五年十月三十日(月) 奈良 信貴山 大本山玉蔵院

醍醐寺推薦者 愛媛 金仙寺住職 今井奉一 僧正 密教教化賞受賞

末寺・教会・醍醐寺だより

弘法大師御誕生千二百五十年慶讃法要並びに真言宗立教千二百年記念法要

令和五年十月二十一日(土) 午前十時 庭儀中曲理趣三昧 金堂

午後二時 柴燈大護摩供 柴燈護摩道場

令和五年十月二十一日(土) ～十月二十二日(日)

記念行事 五重塔特別御開扉

五大力総会

令和五年十月二十三日(月) 午前十時二十分 柴燈護摩供 柴燈護摩道場

本庁からのお知らせ

総務部より

宗教法人の寺院・教会は、毎年会計年度終了後四月以内に役員名簿と財産目録の写しを所轄庁(都道府県庁)に提出することとなっております(『宗教法人法』第二十五条第四項)。

この他にも、収支計算書、貸借対照表、境内建物に関する書類、事業に関する書類の写しの提出が必要となる場合があります(詳細は、真言宗醍醐派宗務本庁ホームページ又は、文化庁ホームページ参照)。

宗務本庁では、これらの書類の写しを本庁にも提出いただくことを、宗教法人並びに非宗教法人の寺院・教会にお願いいたしております。

財務部より

宗費賦課金をいただき、有り難うございます。

まだ納入用紙がお手元にございます場合は、お早目の納付をお願い申し上げます。各種お支払いに関するお問い合わせは、宗務本庁財務部までご連絡ください。

教学部より

教学部では、さまざまな研修会のご要望を募集しております。

現地での開催希望の場合は宗務所単位や、ある程度の参加人数でのご相談となりますので、是非お問い合わせください。

※年末年始閉庁のお知らせ

令和五年十二月三十日(土) ～令和六年一月四日(木)

醍醐寺からのお知らせ

醍醐寺アカデミー・オープンテンプル

「寺院・教会の後継者」育成のための醍醐寺アカデミー、「仏教のこころ」を学ぶオープンテンプルを皆様もご利用ください。

・入門コース

令和六年三月九日(土)

・専門コース

令和六年三月十日(日)

※今月号は録事および広告を休載いたします。